

日本现代文学名著注释丛书

川端康成 著

川端康成著作选释

——《伊豆的舞女》《雪国》



商务印书馆
THE COMMERCIAL PRESS

日本现代文学名著注释丛书

川端康成著作选释

——《伊豆的舞女》《雪国》

〔日〕川端康成 著

林璋 王成 注释

商 务 印 书 馆

2007 年 · 北京

图书在版编目(CIP)数据

川端康成著作选释:《伊豆的舞女》、《雪国》/
〔日〕川端康成著;林璋,王成注释. —北京:商
务印书馆,2007

(日本现代文学名著注释译丛)

ISBN 7-100-04669-6

I. 川... II. ①川... ②林... ③王... III. 日
语—语言读物,小说 IV. H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 102575 号

所有权利保留

未经许可,不得以任何方式使用

日本现代文学名著注释丛书

川端康成著作选释

——《伊豆的舞女》《雪国》

〔日〕川端康成 著

林璋 王成 注释

商务印书馆出版

(北京王府井大街 36 号 邮政编码 100710)

商务印书馆发行

北京民族印刷厂印刷

ISBN 7-100-04669-6/H·1159

2007 年 9 月第 1 版

开本 787×960 1/32

2007 年 10 月北京第 1 次印刷

印张 9 3/8

定价: 16.00 元

出版说明

一个世纪以来,日本文学名家佳作迭出,不仅出现了川端康成、大江健三郎等诺贝尔文学奖获得者,也有夏目漱石、谷崎润一郎、村上春树、渡边淳一等众多近现代文学的代表人物。这些作家的作品或是优美抒情,或是幽玄唯美;或是充满对社会深刻的思考和探索,或是交织着对人生的困惑与希冀。国内译界对之多有译介,对我国也有较大的影响。

为了便于读者更真切地感受、了解日本文学,以及帮助国内读者学习日本语言的精髓,我们拟编辑一套《日本现代文学名著注释丛书》。在这套丛书中,我们将陆续选择一些日本文学的名家名作,约请对日本文学、文化有深入了解的资深专家学者,对作品中的疑难之处进行注释点评。注释点评是一件费时费力的工作,而且还需要有深厚的学术功底。各位专家学者对这项工作也都十分重视。他们的注释

2 川端康成著作选释

细致准确,并力求深入浅出。当然,如何进行注释,我们并没有强求一致,而是由各位专家学者自己去掌握。

我们深知编辑一套让读者感到满意的丛书是一件不容易的事情,希望本丛书能够在各界的支持下臻于完善,也希望本丛书能为读者提供有用的帮助。

商务印书馆编辑部

2007 年

目 录

一、伊豆的舞女	1—56
二、雪国	1—238

《伊豆的舞女》

—

道がつづら折り^①になって、いよいよ天城峠^{あまぎとうげ}^②に近づいたと思う頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓^{ふもと}から私を追って来た。

私は二十歳、高等学校の制帽をかぶり、紺飛^{こんがすり}白^③の着物に袴^{はかま}をはき、学生カバンを肩にかけていた。一人伊豆の旅に出てから四日目のことだった。修善寺^{しゆぜんじ}^④温泉に一夜泊り、湯ヶ島^{ほおば}^⑤温泉に二夜泊り、そして朴歯の高下駄で天城を登って来たのだ。重なり合った山々や原生林や深い溪谷の秋

① つづら折り：曲折の山路。

② 天城峠：地名。「峠」可译为山巅、岭。天城山位于静冈县伊豆半岛中部，像一座天然屏障把伊豆半岛分为南北两部分。天城山岭是连接修善寺和下田的南北交通的要冲。

③ 紺飛白：藏青地碎白花纹（的纺织品）。日本有名的「紺飛白」是「久留米飛白」和「伊予飛白」。

④ 修善寺：也称修禅寺。位于静冈县田方郡修善寺町，是日本曹洞宗的一座禅寺。

⑤ 湯ヶ島：位于静冈县田方郡汤之岛町，日本著名温泉胜地。

4 川端康成著作选释

に見惚^{みと}れながらも、私は一つの期待に胸をときめかして道を急いでいるのだった。そのうちに大粒の雨が私を打ち始めた。折れ曲った急な坂道を駆け登った。ようやく峠の北口の茶屋に^{など}辿りついてほっとすると同時に、私はその入口で立ちすくんでしまった。余りに期待がみごとに的中したからである。そこで旅芸人^①の一行が休んでいたのだ。

突っ立っている私を見た踊子^②が直ぐに自分の座蒲団^③を外して、裏返しに^{そば}傍へ置いた。

「ええ……」とだけ言って、私はその上に腰を下した。坂道を走った息切れと驚きとで、「ありがとう」という言葉が^{のど}咽にひっかかって出なかったのだ。

踊子と真近に向い合ったので、私はあわてて^{たもと}袂から煙草を取り出した。踊子がまた連れの女の前の煙草盆を引き寄せて私に近くしてくれた。

① 旅芸人：巡回演出的江湖艺人。

② 踊子：舞女。小说中的女主人公。

③ 座布団：日本式房屋里使用的坐垫。

やっぱり私は黙っていた。

踊子は十七くらいに見えた。私には分らない古風の不思議な形に大きく髪を結っていた。それが卵形の凜々しい^①顔を非常に小さく見せながらも、美しく調和していた。髪を豊かに誇張して描いた、^{はいし}稗史^②的な娘の絵姿のような感じだった。踊子の連れは四十代の女が一人、若い女が二人、ほかに長岡温泉の宿屋の^{しるしはんてん}印半纏^③を着た二十五六の男がいた。

私はそれまでにこの踊子たちを二度見ているのだった。最初は私が湯ヶ島へ来る途中、修善寺へ行く彼女たちと湯川橋の近くで出会った。その時は若い女が三人だったが、踊子は太鼓を^き提げていた。私は振り返り振り返り眺めて、旅情が自分の身についたと思った。それから、湯ヶ島の二日目の夜、宿屋へ流して来た。踊子が玄関の板敷^④で

① 凜々しい：凜凜，威严可敬。

② 稗史：稗官野史，转义为历史小说。

③ 印半纏：印有商号、姓名等的短外衣。

④ 板敷：铺地板。

踊るのを、私は梯子段の中途に腰を下して一心に見ていた。——あの日が修善寺で今夜が湯ヶ島なら、明日は天城を南に越えて湯ヶ野温泉へ行くのだろう。天城七里^①の山道できっと追いつけるだろう。そう空想して道を急いで来たのだったが、雨宿りの茶屋でぴったり落ち合ったものだから、私はどきまぎ^②してしまったのだ。

間もなく、茶店の婆さんが私を別の部屋へ案内してくれた。平常用はないらしく戸障子がなかった。下を覗くと美しい谷が目の届かない程深かった。私は肌に粟粒^{あわつぶ}を^{こしら}え、かちかちと^③歯を鳴らして身顫^{みふる}いした。茶を入りに来た婆さんに、寒いと言うと、

「おや、旦那様^④お濡れになってるじゃございませんか。こちらで暫^{しばら}くおあたりなさいまし、さ

① 七里：日本长度单位「里」，等于 36 町（3.927 公里）。

② どきまぎする：惊慌失措。

③ かちかちと：拟声词。冻得上下牙发出“得得”的声音。

④ 旦那様：读作「だんなさま」。对男性的尊称。

あ、お召物をお乾かしなさいまし」と、手を取るよう
にして、自分たちの居間へ誘ってくれた。

その部屋は炉が切ってあって、障子を明けると
強い火気が流れて来た。私は敷居^①際に立って
躊躇^{ちゆうちよ}した。水死人^②のように全身蒼^{あお}ぶくれの爺さ
んが炉端にあぐらをかいているのだ。^{ひとみ}瞳まで黄
色く腐ったような眼を物憂げに私の方へ向けた。
身の周りに古手紙や紙袋の山を築いて、その紙屑^{かみくず}
のなかに埋もれていると言ってもよかった。到底
^{いきもの}生物と思えない山の怪奇を眺めたまま、私は棒立
ち^③になっていた。

「こんなお恥かしい姿をお見せいたしまして
……。でも、うちのじじい^④でございますから御
心配なさいますな。お見苦しくても、動けないの
でございますから、このままで堪忍してやって下
さいまし」

① 敷居：门槛。

② 水死人：溺水而死的人。

③ 棒立ち：读作「ほうだち」。呆立不动。

④ じじい：「じじ」的蔑称。老头子，老家伙。

そう断わってから、婆さんが話したところによると、爺さんは長年中風を患って、全身が不随になってしまっているのだそうだ。紙の山は、諸国から中風の養生^①を教えて来た手紙や、諸国から取り寄せた中風の薬の袋なのである。爺さんは峠を越える旅人から聞いたり、新聞の広告を見たりすると、その一つをも洩らさずに、全国から中風の療法を聞き、売薬を求めたのだそうだ。そして、それらの手紙や紙袋を一つも捨てずに身の周りに置いて眺めながら暮して来たのだそうだ。長年の間にそれが古ぼけた^{ほご}反古^②の山を築いたのだそうだ。

私は婆さんに答える言葉もなく、囲炉裏^③の上にうつむいていた。山を越える自動車が家を揺すぶった。秋でもこんなに寒い、そして間もなく雪に染まる峠を、なぜこの爺さんは下りないのだろうと考えていた。私の着物から湯気が立って、頭が痛む程火が強かった。婆さんは店に出て旅芸人

① 養生：读作「ようじょう」。养生，养病。

② 反古：废纸。

③ 囲炉裏：日本式房屋里的“地炉”。

の女と話していた。

「そうかねえ。この前連れていた子がもうこんなになったのかい。いい^{あんこ}娘になって、お前さんも結構だよ。こんなに^{きれい}綺麗になったのかねえ。女の子は早いもんだよ」

小一時間経つと、旅芸人たちが^{いでた}出立つらしい物音が聞えて来た。私も落着いている場合ではないのだが、胸騒ぎする^①ばかりで立ち上る勇気が出なかった。旅馴れた^②と言っても女の足だから、十町^③や二十町^{おく}後れたって一走りに追いつけると思いながら、炉の傍でいらいらしていた。しかし踊子たちが傍にいとなくなると、^{かえ}却って私の空想は解き放たれたように生き生きと踊り始めた。彼等を送り出して来た婆さんに聞いた。

「あの芸人は今夜どこで泊るんでしょう」

「あんな者、どこで泊るやら分るものでございま

① 胸騒ぎする：心緒不宁，忐忑不安。

② 旅馴れる：习惯于旅行，熟悉旅行事务。

③ 町：此处为日本の长度单位。1町为60间，约合109米。

すか、旦那様。お客があればあり次第、どこにだって泊るんでございますよ。今夜の宿のあてなんぞございますものか」

甚^{はなは}だしい^{けいべつ}軽蔑を含んだ婆さんの言葉が、それならば、踊子を今夜は私の部屋に泊らせるのだ、と思った程私を^{あお}煽り立てた。

雨脚が細くなって、峰が明るんで来た。もう十分も待てば綺麗に晴れ上ると、しきりに引き止められたけれども、じっと坐っていられなかった。

「お爺さん、お大事になさいよ。寒くなりますからね」と、私は心から言って立ち上った。爺さんは黄色い眼を重そうに動かして^{かす}微かにうなずいた。

「旦那さま、旦那さま」と叫びながら婆さんが追っかけて来た。

「こんなに^{いただ}戴いては^{もったい}勿体のうございます①。申訳ございません」

そして私のカバンを抱きかかえて渡そうとせず

① 勿体のうございます：「勿体ない」的敬语表达方式。

に、幾ら断わってもその辺まで送ると言って承知しなかった。一町ばかりもちょこちょこ^①ついて来て、同じことを繰り返していた。

「勿体のうございます。お粗末いたしました。顔をよく覚えて居ります。今度お通りの時にお礼をいたします。この次もきっとお立ち寄り下さいまし。お忘れはいたしません」

私は五十銭銀貨を一枚置いただけだったので、痛く驚いて涙がこぼれそうに感じているのだったが、踊子に早く追いつきたいものだから、婆さんのよろよろした^②足取り^③が迷惑でもあった。とうとう峠のトンネルまで来てしまった。

「どうも有難う。お爺さんが一人だから帰って上げて下さい」と私が言うと、婆さんはやつのことでカバンを離した。

暗いトンネルに入ると、冷にい^{しずく}雪がぽたぽた落ちていた。南伊豆への出口が前方に小さく明る

① ちょこちょこ：形容走路的样子，迈小步走，摇摇晃晃。

② よろよろする：拟态词。摇摇晃晃，踉踉跄跄。

③ 足取り：脚步，步伐。